

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月21日

協議会名:	横手市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
つばめ自動車(株)	横手デマンド交通 横手市内全域(ただし、横手駅を中心とした一部市街地は乗り降りできない。)	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・運転免許証自主返納者に対する公共交通利用回数券交付事業において、回数券交付時にパンフレットを同封する取り組みを継続するとともに、福祉部門や各地域と連携しながら、新規利用者の獲得及び積極的な活用を促す。 【評価結果の反映状況】 ・運転免許証自主返納者向けに、回数券交付時にパンフレットを同封する取り組みを継続して実施している。また、バス路線廃止に係る住民説明会や各地域における意見交換会の際に事業の紹介及びパンフレットの配布を行っており、様々な機会を活用して利用者の掘り起こしを図っている。 ・令和5年度より福祉部門において交通助成券を交付しており、当該回数券の周知も積極的に行い、公共交通の利用を促している。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B ・利用者数を目標35,600人/年としていたところ、実績34,085人/年であり、目標を1,515人下回った。【達成率95.7%】 ・一人あたりの財政支出の目標を890円としていたところ、実績933円となり、43円オーバーであった。 ・利用者数の前年度比は93%とやや減少した。その要因として、人口減少はもちろんのこと、物価高に起因した部分もあると捉えている。	・運転免許証自主返納者に対する公共交通利用回数券交付事業において、回数券交付時にパンフレットを同封する取り組みを継続するとともに、地域での説明会や他分野の各種会議等、様々な機会を活用し事業の周知を図る。また、より使いやすい事業となるよう随時事業者等との協議を行い、利用者の定着や新規利用者の獲得を目指す。 ・福祉部門で交付している交通助成券の制度周知も積極的に行い、公共交通の利用を促す。
(資)浅舞タクシー					
(同)沼館タクシー					
さとみタクシー(有)					
(資)大森タクシー					
(有)ユニオン交通					
よこてタクシー(株)					

羽後交通(株)	市内循環バス 横手バスターミナル～平鹿総合病院～イオンスーパーセンター～平鹿総合病院～横手バスターミナル(一周29.1km)	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・現在の利用実態等を考慮するとルート等の変更は容易ではないと思われるが、冬期間の安全確保や利用者のニーズに合った運行体制となるよう、今後も事業者と連携しながら検討を続けていく。 【評価結果の反映状況】 ・事業の実施にあたっては事業者と都度連絡を取り合いながら行っており、利用実態に応じて利用の少ない便を一部運休とし、効率的な運行に向けた見直しを行っている。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	・利用者数を目標41,000人/年としていたところ、実績42,435人/年であり、目標を1,435人上回った。【達成率103.5%】 ・前年度に引き続き、利用者数が増加しており、利用状況はコロナ禍前の水準近くまで回復しつつある。	・利用者の定着や新規利用者の獲得に向け、利用ニーズに合った運行となるよう事業者と連携して協議・検討を継続していく。
	朝日が丘上台線3 横手バスターミナル～上台(7.1km) 上台～横手バスターミナル(7.4km)				C	・利用者数を目標8,500人/年としていたところ、実績4,918人/年であり、目標を3,582人下回った。【57.8%】 ・コロナ禍による外出自粛・行動規制はほぼなくなったと言えるものの、沿線上にある横手病院においては診察や面会の制限も引き続き行われていることから利用者減になっていると考えられる。 ・全便土日祝日運休としている。	

朝日が丘上台線9 横手駅東口～横手バスターミナル(14.7km)
朝日が丘上台線10 横手駅東口～横手バスターミナル(14.1km)

A	・利用者数を目標2,700人/年としていたところ、実績2769人/年であり、目標を69人上回った。【102.5%】
B	・利用者数を目標3,800人/年としていたところ、実績3,158人/年であり、目標を642人下回った。【83.1%】 ・コロナ禍による外出自粛・行動規制はほぼなくなったと言えるものの、コロナ禍が長期化したことによる影響は、まだ続いていると考えられる。 ・全便土日祝日運休としている。

羽後交通(株)

大森線10 横手バスターミナル～大森病院前(17.9km) 大森病院前～横手バスターミナル(17.7km)	【前回(2事業年度前)の評価結果】 ・現在の利用実態に即した適切なダイヤ設定及び目標設定を行う。 ・路線バスの時刻表の全戸配布を継続することで、運転免許証自主返納者のような新規需要に向けて利用促進を図っていく。 ・運転免許証の自主返納者等を対象とした割安な定期券について周知し、新規利用者の獲得・積極的な活用を促す。 ・福祉部門等や地域住民を巻き込むなど、多様な主体と連携した取り組みを行う。
山内線4 横手駅東口～三又温泉入口(23.9km)	
山内線9 三又温泉入口～横手駅東口(23.2km)	

A

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

C	・利用者数を目標10,800人/年としていたところ、実績8,168人/年であり、目標を2,632人下回った。【75.6%】 ・全便土日祝日運休としている。
B	・利用者数を目標4,000人/年としていたところ、実績3,504人/年であり、目標を496人下回った。【87.6%】 ・全便土日祝日運休としている。
C	・利用者数を目標4,100人/年としていたところ、実績2,788人/年であり、目標を1,312人下回った。【68%】 ・当該系統は農村部から市街地への系統となっているものの、実際には沿線の学校(横手清陵学院)の帰りの利用が主となっている。コロナ禍による外出自粛・行動規制はほぼなくなったと言えるものの、コロナ禍が長期化したことによる影響は、まだ続いていると考えられ、また、夕方の便については保護者による送迎が年々増加していることが利用者減の大きな要因と思われる。 ・全便土日祝日運休としている。

・ダイヤ改正の影響等も鑑み、利用状況を事業者とともに注視しながら実態に即したダイヤ設定及び目標設定を行う。
・路線バスの時刻表の全戸配布を継続することで、利用者の掘り起こしを図る。
・事業者と連携しながら、利用ニーズに応じて見直し等を検討し利便性向上を図る。

横手本荘線2
横手バスターミナル～坂の下
(24.9km)
坂の下～横手バスターミナル
(24.4km)

横手本荘線13
坂の下～横手バスターミナル
(27.7km)

B	・利用者数を目標7,200人/年としていたところ、実績7,155人/年であり、目標を45人下回った。【99.3%】 ・当該系統は日中の便を中心としたダイヤになっており、コロナ禍による外出自粛・行動規制はほぼなくなったと言えるものの、まだ影響が続いていると考えられる。 ・ダイヤ改正により一部を土日祝日運休としている。
C	・利用者数を目標2,500人/年としていたところ、実績1,906人/年であり、目標を594人下回った。【76.2%】 ・コロナ禍による外出自粛・行動規制はほぼなくなったと言えるものの、沿線上にある平鹿総合病院においては診察や面会の制限も引き続き行われていることから利用者減になっていると考えられる。

※枠の大きさの変更は可能です。